

## 6. FTA 締結がもたらす経済効果や産業界への影響に関する調査研究

### 1. 調査の目的

アジアにおいては、中国が世界の工場と称され、日本などの先進工業諸国が生産財、部品を中国に輸出し、中国から製品がこれらの諸国および米国・EUなどに還流・輸出されるという動きが顕在化している。80年代半ばまで、日本が製品をこれらの地域に一方的に供給するという貿易構造であったが、現在では、東アジア諸国、中国の工業化の進展もあり、域内分業が進展し、日本もこの域内分業に組み込まれつつある。

この環境下、東アジア地域において ASEAN 諸国、中国などを中心に FTA 締結が進んでいる。一方、日本の FTA 締結はアジアにおいてはシンガポールのみで、他国とは交渉中の段階で、出遅れた感がある。

本報告書は、東アジアにおける FTA 締結の動きを整理し、これらが日本経済・産業にどのような影響を与えるか、そして日本が採るべき方策について考察することを目的としている。

### 2. 調査結果の概要

第1章では、東アジアにおける FTA 締結の現状および条約の内容について整理した。

第2章では、特に東アジア域内で中国と ASEAN との FTA 締結に焦点を当てて、FTA を促進する政治的・経済的な意図を分析し、今後の方向性を探った。

第3、4章では、東アジア諸国の中で、日本との貿易規模が大きく、多数財で相互に貿易がみられる台湾に焦点を当てて、関税を撤廃した際に、貿易が相互にどの程度拡大し、経済にどの程度の影響を与えるのかについて試算した。